

# カルレスタイムズ

## 東北の「カルチャーレストラン」導入教室で 生徒さんが講師としてイベント開催



東北エリアに10店舗以上を展開する、創業90余年の老舗眼鏡店が運営する教室です。

こちらの教室では会員さま（カルレス教室に通われている方々）による新作ムービーお披露目が行われる恒例ランチ会をはじめ、毎月3〜4回のイベントが開催されています。

今年1月末、初めて「会員さまが講師を務める」イベント「メデイカルアロマ講座」が開かれました。「カルレスの『クラフトアート講座』のような資格が取れる講座を広めていきたいかったこと、新しい趣味を見つける楽しさだけでなく、講師として『教えることの楽しさ』を会員さまに味わっていただきたかったことが、この講座を開催した理由です。」と教室長の近藤美祈子さんは語ってくれました。

講師を務められたAさんはアロマサロンを経営されています。「お店のチラシや名刺、ブログを自分で制作したい」という目標があつて教室に入会されました。その目標が達成されたあとも、次の目標を見つけて教室に楽しく通っておられます。「メデイカルアロマ講座」のテキストもAさんの手作りです。講座で使うテールブルクロスや小物などもAさんがお店から持参されて、教室の一角が優雅なアロマサロンのようになりました。

「メデイカルアロマ」とは「香りだけでなく、精油の力で病気になる前の不調な身体のケアや病気とは認められない症状を改善するアロマ」のことだそうです。この講座の参加者は全員女性でした。「メデイカルアロマ」はお肌のシミ軽減や肩こり解消や、女性特有のホルモンバランスの崩れによるトラブルなどにも効果があるという説明を受けると、参加者一同、健康トークで大いに盛り上がりました。最近では認知症予防にも有効であると注目されているようです。「メデイカルアロマ」についての知識を学んだあとは、自分だけの「ラベンダークリーム」を手作りしました。

ランチ会や新作ムービーお披露目会では男性の参加者も多いこちらの教室のイベントですが、この日は女性らしい雰囲気と香りに包まれました！

今後は「メデイカルアロマ」講座第2弾も企画されており、それ以外にも「着付け」や「健康体操」など、「会員さまが講師を務めるイベント」を積極的に開催していく予定だそうです。

このようにカルチャーレストランの教室ではカルレス講座や会員さまの得意なことを介しての「コミュニティ作り」が続々と進んでいます。（文・カルライター）

### 3月のニュース

#### 平成がもうすぐ終わる！4月限定 平成・昭和クイズ大会を開催

いよいよ平成が終わり、次の元号に変わります。日本コスモトピアよりカルチャーレストランの教室の会員さま（生徒さん）に向けた、平成・昭和の時代のクイズを配信します。

クイズを解きながら、平成と昭和を振り返り、さらにはご自分の出来事も思い出してもらいます。成績優秀者への表彰有り。既存の会員さまだけでなく、新規顧客向けのイベントとしても開催が可能です。

開催日時：4月1日（月）〜5日（金）

※教室会員さま&スタッフさまには別途お知らせします

### 季節のお話 「清明節」

#### カルレスタイムズコラム

清明節ってご存知ですか。

清明節とは中国、台湾、香港といった中華圏でも大切な4月の祝日です。この祝日は日本のお盆に似ていて、祖先のご加護と平和を祈り、お墓参りをする日とされています。

中華圏では旧暦をもとにしている24節気で祝日を決めます。24節気とは1年を春夏秋冬の四つの季節に分け、さらにそれぞれを6つに分けたもので、日本でも立春、春分、夏至など、季節を表す言葉として用いられています。清明は春分の日から15日後にあるため、毎年だいたい4月5日頃から15日間とされています。

「清明」は春風が吹き、草木は芽生え、明るく生命力の溢れる清らかな季節なので、「清明」と名がついたと言われています。そして中国では故人の魂は土の下に住んでいると思われています。清明のあとは雨がよく降る季節なので、暖かい季節のうちに、お墓をきれいにして土をしっかりと盛り、祖先を偲ぶようになったということです。

清明節には、大きく2つの風習があります。

1つ目は、清明節にはお墓参りに行くことです。お墓をきれいにし、雑草をとり、土を盛り、ご馳走をお供えして、祖先にご加護と平和を祈ります。最後に、紙幣に似せて作った紙を、あちらの世界で使ってくださいとの意味で墓前に燃やします。紙幣に似せて作った紙は本物と間違わないように大きめに作られています。

2つ目は、日本ではお花見のように春を楽しむための宴会をします。お墓参りが終わるとすぐに供えたご馳走を食し、宴会をその場で始めます。そのためにお墓の周りには宴会用のスペースが広く設けられています。ご馳走は地域によって全く異なります。特に決まりはないので、それぞれの地域で親しまれているお菓子や料理をたくさん作って家族で楽しめます。

また、この時期に沖縄では、伝統行事「清明祭（沖縄方言で『シーミーまつり』）」が行われます。祖先のお墓を掃除して清め、親戚中が集まり、お花やお酒、かまぼこや昆布や三枚肉の煮付けなどの縁起物を詰めた重箱をお供えます。お供えたあととそれらをいただきながら楽しみ、家族の絆を深めます。（文・カルライター）



### 旅エィター便り



以前からドローン撮影には興味があったものの、時間を取られることが分かっていたので二の足を踏んでいました。二〇一八年五月、知人の強い勧めもあり、遂にドローンを購入し、ドローン撮影旅行が始まりました。以後、150日間かけて、北海道から沖縄の島まで日本各地を巡りドローン撮影を行いました。旅を終えた後、音楽とテロップをつけて動画を編集し、207本の動画を完成させました。



ドローン撮影旅行を終えて実感したのは、「ドローンほどストレスのかかる趣味はない」ということです。気象条件や風力、地形などドローンが安全に飛行できる条件がすべて整っていないとドローン撮影はできません。晴れていないと視界が悪くなり、また風が強いとドローンはどこかへ飛ばされてしまいます。また、沖縄など海上の撮影では潮の干満により、撮影時間が制限されてしまいます。天気予報をにらみながら綿密な計画を立てても、当日になると予報は見事に外れて、変更が次々変更で、なかなか思い通りに進みませんでした。ドローンが木に引っかかりたり、行方不明になったこともありました。

こうした様々な苦労の末に、ドローン撮影旅行を終えました。帰宅後は編集作業に追われました。改めて見返してみると、空から俯瞰したダイナミックな映像を楽しむことはドローン撮影の醍醐味の「つだ」と思えます。また、編集作業も楽しいもので、動画をうまく切ったりつなぎ合わせることができたり、音楽が映像のイメージとピッタリあったときなども苦労して撮影した甲斐があったと感じます。

こうして、撮った動画をQRコードで閲覧できる、「二〇一九年ドローン紀行「我が郷土・我が日本」カレンダー」を作成しました。次回はカレンダーの動画に関するエピソードをご紹介します。



### 旅エィター

一九四六年生まれ。御歳72歳。学校・学習塾用教材の制作会社を設立し、教材販売のため全国行脚。

第一線からの引退後、日本国内をはじめ、これまで世界58ヶ国に渡航し、フーテンの寅さんの如く、一人旅を続ける。彼の旅のスタイルは、一人、車で巡り、写真とドローンに景色を収めること。自らが編集した動画や写真をフェイスブックに投稿し、多くのファンを獲得している。アクティブシニアならぬ「パワフルシニア」として、旅を通じたシニアライフの生き方を同年代に発信し続けている。

「カルレスタイムズコラム」ライター募集中！（教室に通われている会員さま、およびスタッフ限定）日本各地の季節の風習やお祭り、観光地など、テーマは何でもOK！詳しくは、日本コスモトピアまで。